

## 2022年度（対象年度：2021）自己点検・評価シート

## 基準7 学生支援

## ■事前確認

前年度の自己点検・評価シートから、伸長・改善計画、評価結果の課題事項（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】）を転記していますので、確認してください。

認証評価結果において、大学基準協会から指摘された事項について確認してください。

<前年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
702①	退学者や休学者の情報の共有や、単位僅少者指導に資する情報項目の精査、収集及び共有

<前年度の評価結果（課題事項）>

課題事項《箇条書き》	*各項目に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載。該当がない場合は「なし」と記載。
なし	

<【参考】認証評価結果における指摘事項>

総評における助言 / 是正勧告 / 改善課題
なし

## I. 自己点検・評価

## 1 自己点検・評価結果 &lt; 評定 &gt;

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「S」「A」「B」「C」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目<大学基準協会の「点検・評価項目」に相当> 点検項目（評価の視点）<大学基準協会の「評価の視点」に相当>	自己評価 現状
702	学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。 ①学生の修学に関する適切な支援の実施 ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ・成績不振の学生の状況把握と指導 ・留年者及び休学者の状況把握と対応 ・退学希望者の状況把握と対応	A

## 2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために従来と異なる対応・対策を行った場合は、その取り組みがどのように点検項目を満たすのかについても併せて説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。
702① 「学生支援の方針」（「修学支援の方針」「学生生活支援の方針」「キャリア支援の方針」）に基づき、学生の修学に関する適切な支援をおこなうため、2016年度には、退学者や単位僅少者の対応方法に関して、各学部宛に調査依頼し確認を行った [702a]。各学部からの回答を踏まえ、退学者減少に向けた全学的な取り組みについて、第10回教務会議（2017年1月13日開催）において審議した結果、初年次からの単位僅少者指導の全学的な取り組みの検討については、各学部が主体的に取り組むことが確認されている [702b,c,d,e,f,g]。

現在、各学部では、単位僅少者指導の実施時期や回数を改善するなど、学生個々の状況に応じた指導や助言がおこなえるよう取り組みを続けている。このような状況を踏まえ、2019年度には学部長懇談会（2019.4.18）にて、GPA制度の活用にかかる懇談を行い、その中で各学部が行う単位僅少者指導の取り組みについて意見交換し、GPAを活用した修学支援について検討を行った [702h]。

その他、障がい学生支援室と各学部が連携して、授業における配慮の必要な学生に対して、学部長から授業担当教員へ「学生への教学上の配慮について」の依頼を行っている。

702① 昨今の大学を取り巻く環境等を踏まえ、2021年度に「学生支援の方針」の改訂を行い、障がいのある学生や留学生など多様な学生に対する支援についても、方針として明示することとなった [702i]。

702① 2021年度も、引き続きコロナ禍の状況のもとでの授業運営となったが、対面授業の実施にあたり、基礎疾患があるため新型コロナウイルスへの感染リスクが高い学生など、対面授業の出席に支障や不安のある学生への配慮として、対面授業をオンラインで配信するなどの制度を整え、学修機会の確保に努めた [702j、k]。

長所・特色《箇条書き》\*先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「S」のもの

課題事項《箇条書き》\*伸長すべき点、改善すべき点

702 各学部における学修支援にかんする取組成果の共有

### 3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み \*成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない

702① 障がい学生支援室と各学部が連携して、授業における配慮の必要な学生に対して、学部長から授業担当教員へ「学生の教学上の配慮について」の依頼を行っている。

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
702①	退学者や休学者の情報の共有や、単位僅少者指導に資する情報項目の精査、収集及び共有

### 4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
702	a	学部における退学者及び単位僅少者の対応方法に関する調査について（依頼）
702	b	退学者減少に向けた全学的な取り組みについて（提案）
702	c	各学部における単位僅少者指導状況と基準
702	d	2016年度 学部における退学者及び単位僅少者の対応方法に関する調査結果（各学部回答一覧）
702	e	【参考】退学者数の推移（在籍者数に占める退学者数の割合）
702	f	【参考】2012年度入学生の退学者数と退学率
702	g	2016年度 第10回教務会議 議事録（抜粋）
702	h	学部長懇談会（2019.4.18）資料<抜粋>
702	i	「学生支援の方針」の改訂について（2021年度第35回部局長会資料）
702	j	2020年度第14回教学会議資料
702	k	新型コロナウイルス感染症の影響を受けた学生への支援状況・学生の修学状況等について（依頼）

## 総評

2021年度は、「学生支援の方針」を改訂し、従来の3つの方針（修学支援の方針、学生生活支援の方針、キャリア支援の方針）に、留学生支援の方針及び障がい学生支援の方針を追加した。2022年4月からWEBで公表し、学内構成員には学生手帳等でも周知している。また対面授業を再開するにあたり、健康面を含め対面授業の出席に支障や不安を持つ学生の学修機会を確保するため、対面授業も（必要に応じ）オンライン配信することとしている。

単位僅少者指導等の学習の継続に困難を抱える学生に対する支援は、学部・研究科が主体となって実施している。2021年度は、文部科学省からの依頼を踏まえ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた学生への支援状況・学生の修学状況についての調査を行い、各学部・研究科の中途退学者数および休学者数に関する状況の把握に努めている（702k）。

701②は過去のことのみを記載しており、根拠資料（702a～h）もかなり古いものである。自己点検・評価では、評価対象年度の取り組みを中心に記載することが望まれる。

以上、学生支援の方針の改訂を含め、状況に応じた適切な学生支援策を実施していると評価できる。

## 長所・特色《箇条書き》

## 課題事項《箇条書き》 \*各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

702①は過去のことのみを記載しており、根拠資料（702a～h）もかなり古いものである。自己点検・評価では、評価対象年度の取り組みを中心に記載することが望まれる。【留意点】